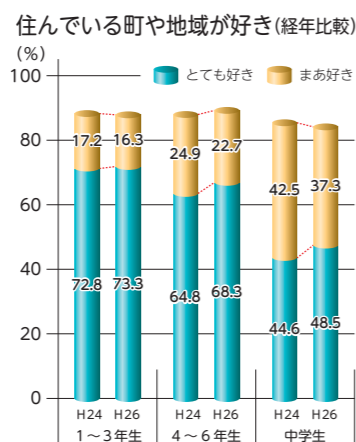


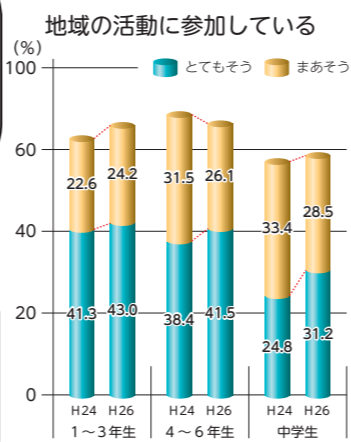
“ふるさと大好き”な浦安っ子に

この50年で人口が約10倍になった浦安市には、様々な国や地域出身の方が暮らしており、浦安の魅力の一つとなっています。一方、ここ浦安で育つ子どもたちにとっては浦安こそがふるさとです。



地域の活動に参加している割合は6～7割ですが、H24年度と比べて「とてもそう」は増加しています。

浦安っ子の8割以上は「自分の住んでいる町や地域が好き」と回答しており、H24年度と比べて「とても好き」が増加しています。



ふるさと再発見

▶▶ 学校・行政では

ふるさと浦安作品展は浦安の調査研究・作品制作をとおり、より深く郷土を知り、郷土を愛する気持ちを育む機会となるよう、毎年開催しています。これは学校での地域学習をベースとした発展的な学習です。子どもたちは夏休み期間に郷土博物館を訪れ、「ふるさと浦安相談会」などを利用しながら自分で関心を持ったテーマを研究します。今年の作品展には小・中学生合わせて1350名が出品。浦安の歴史や自然など、子どもたちの目線から捉えた浦安のよさや課題、未来への提案が見られました。



小学生の部最優秀賞 「五つの川の姿」

南小学校4年 竹沢真那さん

3年間「ふるさと浦安作品展」に出品してきました。毎年、新しいことがわかって楽しいので続けてきました。今年は、川について調べました。(中略) なげなく見ている川が、町を水害から守るための大切な川だと知りました。堀江川は、浦安のヒーローです。堀江川の本物の姿がわかり、川を大切にしたいと思いました。



中学生の部最優秀賞 「農耕地ゼロのまち浦安! から緑豊かなまちを目指す」

日の出中学校2年 安藤瞳さん

農耕地がゼロになってしまった浦安市がどのように緑を取り戻していくのかについて調査をしました。市役所のさまざまな活動により、たくさんの新しい緑が生まれていることがわかったので、ボランティアとして参加できるなら、ぜひしてみたいと思いました。



郷土愛をはぐくむために

郷土愛をはぐくむためには、「ふるさと浦安を学ぶ」機会だけでなく、地域での「人とかかわり」も大切です。本市では地域と学校をつなぐ学校支援コーディネーターの配置や、学校外での学びや居場所の充実など、地域ぐるみで浦安っ子を支援する仕組みづくりを進めています。

実際、様々な場面で多くの市民の方々が子どもたちを支援してくださっており、昨年度1年間の学校支援ボランティア(市立幼・小・中)だけでも、のべ22,000人以上の方が活動してくださいました。

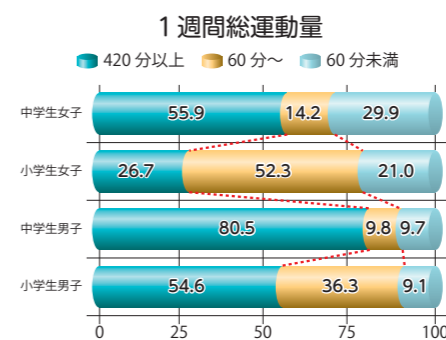
浦安の子どもたちが、地域の「人・もの・こと」にたくさん出会い、触れ合うことをとおして、地域のよさに気づいたり、豊かにかかわったりできるように、地域ぐるみで“ふるさと大好き”な浦安っ子をはぐくんでいきましょう。



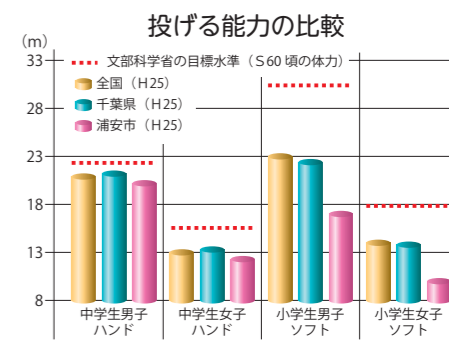
約140人の地域の方が参加した美浜中学校「はまかぜ祭」

健康でたくましい浦安っ子に

浦安っ子の体力はここ数年ほぼ全国レベルではあるものの、千葉県の平均値を下回るものも多く、体力の向上は継続的な課題であると言えます。健やかな体はあらゆる活動の源です。本市では、いのちを大切に、健康でたくましい子どもの育成のため、学校教育活動をはじめとする様々な取組を推進しています。



中学生女子では1週間で体育の授業以外に運動する時間が60分に満たない子どもが約3割にも上ります。



特に浦安っ子の課題となる投力は、全国平均、千葉県平均を下回る年代が多くみられます。

【平成25年度全国体力・運動能力運動習慣等調査】より

▶▶ 保育園・幼稚園では

幼児期は、遊びや生活の中での様々な動きを中心に、楽しく体を動かすことが大切です。



市立各保育園では、健康診断や食のアンケート調査をとおりて幼児の実態を把握するとともに、日々の遊びの中で多様な活動を取り入れ、体力づくりに取り組んでいます。

市立各幼稚園では、体力づくりを主題に設定し、体力測定の実施や運動の年間計画を作成するなど、園の実態に合わせた生活や教育活動を進めています。

▶▶ 学校では

「体力向上推進校」を核として市全体の児童生徒の体力向上を図っています。



平成26年度は小学校7校、中学校4校を推進校に指定し、研究を進めています。例えば、浦安市の課題である投力向上

のための取組では、教材・教具を工夫したり、上級生が下級生を教える機会を設けたりするなど、子どもたちが主体的に運動に親しむ“しかけ”を工夫しています。



正しく投げます。音が鳴ります。

スポーツフェアを開催して

市民がスポーツに親しむイベント「浦安スポーツフェア2014」を10月12日、浦安市運動公園で開催しました。会場では県理学療法士会が「子ども体力診断ブース」を設置し、3歳児から12歳の子ども約350人が下肢筋力やバランス、柔軟性などを計測する12の運動テストに取り組んでいました。

▶▶ 家庭でできること 千葉県理学療法士会 宮島恵樹氏の話

診断は食育・運動習慣・睡眠などの生活習慣のアンケートも踏まえて行いました。この結果、多くの参加者は年齢に相応した総合的な運動測定値となりましたが、一部、年齢に即した筋力・体力値に達していない子どもが見られました。

近年、子どもの運動機会の減少が指摘され、運動器疾患や体の痛み、怪我のしやすさなどが問題視されています。今回の計測のように、まずは子どもの成長状態を把握し、日々の運動や食事などの生活習慣を振り返り、改善していくことで、子どもの成長の後押しができると思います。

